

[Report]

Usefulness and Student Course Evaluation, Design of the “Disaster Nursing Practice” in Basic Nursing Education

Ayumi Nishigami*, Xiaochun Zhang** and Ai Miura***

* Aino University, Department of Nursing

** Baika Women’s University, Faculty of Nursing and Health Care

*** Shijonawate Gakuen University, Faculty of Nursing

Abstract

[Objective] Design a disaster nursing practice that has few precedents and conduct two surveys of students before and after the course to clarify the expectations of the students for the course, the effects of the course, and validity for the future in basic nursing education. [Study method] Conducted two surveys of 28 participants in the disaster nursing practice course from 2013 to 2014 with a questionnaire prepared by researchers before and after the course.

The questions of the questionnaire before course were on their motivations for taking the course and interests, and the ones after course were on the degrees of their participations, understandings, usefulness of the course, and appropriateness of the time when the course started. [Results] The survey papers were handed out to 28 students before course and 23 students after course, and all of them were collected. In the before- course survey, with regard to the motivation for taking the course, 93% of the students answered “was interested in the contents of the course”, followed by 64% of the students who answered “it seems to be necessary for nurses”. In the after- course survey, 96% of the students answered “was able to participate in the course actively”, and 100% of the students answered “very good” or “good” to the item of “understanding”.

[Conclusion] The practice made the students aware of their own growths and competencies as nurses.

Key Words : disaster nursing practice, design of the disaster nursing practice, basic nursing education

看護基礎教育における災害看護学演習の科目デザインと 学生による授業評価と有用性

西 上 あゆみ*, 張 曉 春**, 三 浦 藍**

【要 旨】 【目的】 看護基礎教育における災害看護学演習をデザインし、科目に対する学生の授業評価と有用性に関するコース前後の調査から、実施内容と科目に関わる課題を明らかにする。【研究方法】 2013 および 2014 年度の災害看護学演習受講者 28 名を対象に研究者で作成した質問紙調査をコース前後に実施した。調査内容はコース前は受講動機や興味等を、コース後はコースへの参加度や理解度、役立ち度、開講時期の適切性等を質問した。【結果】 調査用紙は、コース前は 28 名にコース後は 23 名に配布し、全員から回収した。コース前調査より、履修動機については 93% が「授業内容に興味・関心を持ったから」と回答し、次いで「看護職者として必要そうだから」64% であった。コース後調査より「積極的に参加することができた」に 96% が、「良く理解できた」に 100% が「そう思う」または「どちらかというと思う」に回答した。【結論】 本演習は、学生にとって自分の成長や看護職者として役立ちを感じさせる有用なものになっていた。

キーワード：災害看護学演習，科目デザイン，看護基礎教育

I. はじめに

近年の災害の発生件数の多さ、ゲリラ豪雨などに代表される自然災害の様相の変化などから、看護を取り巻く環境は変化しており、災害看護が必要とされるようになった。そこで、指定規則による 2009 年のカリキュラム改正において新たに統合分野が創設された。そのうちの『看護の統合と実践』の具体的内容の一つとして、災害直後から支援できる看護の基礎的知識について理解することが明示された¹⁾。A 大学では、災害看護学が統合分野に設置されたことから、講義科目としての災害看護学の授業を 4 年前期に、災害看護学演習を 4 年後期に設定した。

災害看護学の授業に関連した先行研究であるが、1) 授業の内容と現状に関するもの、2) 授業評価に関するものの 2 つに大別して述べる。授業の内容と現状について、山本ら²⁾は、国内外の災害看護に関連する文献と専門家のフィードバックから災害看護教育モデルについて構築した。これによると学部における災害看護教育カリキュラムは必須科目として講義科目 2 科目 2 単位、選択科目として演習科目 2 科目 2 単位で作成されていた。本稿で述べる災害看護教育カリキュラムは講義科目の災害看護学は必須ではないが演習を学ぶ先行要件として 1 科目 2 単位を設置、本演習は 1 科目 2 単位とモデルと同単位数の授業が実施できるようになっている。しかし、演習に関する具体的内容は示さ

* 藍野大学医療保健学部

** 梅花女子大学看護保健学部

*** 四條畷学園大学看護学部

れていなかった。さらに小原³⁾は自分が教授している内容を事例として報告している。赤十字災害看護論、赤十字援助方法論Ⅰ～Ⅲと1～3年生に教授している5単位120時間の内容であり、集中講義も含まれるカリキュラムは、本演習の内容として一部参考になるが、そのままを利用することは難しい。佐藤⁴⁾によると看護基礎教育における災害看護学教育について1単位の学校は93.4%であり、2単位実施している教育機関は4.8%と少ない、平均講義時間は14.6時間あるが演習は5.1時間と少ないことが報告された。つまり、日本では山本らの示すモデルとなる災害看護の授業はほぼ行われていない、演習に関する授業が少なく、どのような内容が可能であるのか、それに対する学生の評価も報告されていない。

授業評価についてであるが、石川ら⁵⁾は、「災害と地域看護活動」という自由科目を受講した9名の学生からどのような学びがあったかについて記し、災害が住民に与える影響を多面的にとらえたと報告している。百田ら⁶⁾は、1泊2日の避難所疑似体験演習をととして災害看護への興味が深まったと回答した学生が90%あったと述べている。以上から、演習は学生に実践的な学びを与える可能性がある。さらに病院など関連施設の防災訓練に参加した学生の学びに関する研究はいくつか見られる^{7,8)}が、災害看護学演習としての科目コース全体の評価は、報告されていない。看護基礎教育における実践の少ない災害看護学演習について、今後、他の看護基礎教育養成施設においても一演習科目として実施される必要があると考え、その実践内容と学生からみた授業評価および有用性に関する評価を報告する。

Ⅱ. 研究目的

看護基礎教育における災害看護学演習をデザインし、科目に対する学生の授業評価と有用性に関するコース前後の調査から、実施内容と科目に関わる課題を明らかにする。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象者

2013年度および2014年度にA大学の災害看護学演習を受講した看護大学生28名

2. 調査期間

2013年9月～2014年12月

3. データの収集方法・手順

研究は質問紙を用いて実施することとし、調査を2回した。1回目は、コース前調査として、科目オリエンテーションを行う日の災害看護学演習の授業後に調査用紙を配布し、回答してもらった。2回目は、コース後調査として第15回目の授業終了後に調査用紙を配布し、実施した。調査にあたって、研究の概要について口頭と紙面で説明し、研究への協力を依頼した。学生には、自由意思での回答を求め、調査用紙への回答をもって、研究の同意とすることも説明した。

調査内容については、看護学部における授業評価に関する文献、大学における授業評価に関する文献や先行研究⁸⁻¹⁰⁾をもとに研究者で作成した。調査用紙は、本演習の評価につながるよう、どのような学生が受講しているのかを問い、演習後にコースに対する授業評価と有用性に関する調査を行うこととした。コース前調査は、履修動機とシラバス項目において興味のある演習で当てはまるものに印をつけてもらった。そして興味のある演習については、その理由と授業に期待することを自由記述で回答してもらった。コース後調査は、9つの評価に関する質問を「そう思う」～「そう思わない」の4段階で回答してもらい、その理由も記述してもらった。さらに今回の項目以外に取り上げてほしい授業内容も記述してもらった。

4. データの分析方法

構成的質問項目については単純集計を行った。自由記述については、研究者間で項目毎に類似している内容を集約し、まとめた。

5. 倫理的配慮

回収した調査用紙は研究以外に使用しない旨を学生に説明した。調査用紙配布時には、回答は途中で中断しても良いこと、無記名で提出するように説明した。このことにより調査は成績に影響しないこと、回収は所定の箱への投入として、研究者が個人を特定できないことを説明した。A大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。

Ⅳ. 災害看護学演習

A大学には災害看護学に関する授業は、講義科目

表1 災害看護学演習コース概要と学生の授業内容への興味

回数	内容 (テーマ)	授業形式	授業内容へ興味あり		
			2013年 n=16 n (%)	2014年 n=12 n (%)	合計 n=28 n (%)
1	コースオリエンテーション				
	災害状況下のイメージと看護師の準備				
2	学外で見学実習 (災害拠点病院と防災センター)	見学・講義・演習	14 (87.5)	10 (83.3)	24 (85.7)
3	避難所疑似体験演習	演習	16 (100)	12 (100)	28 (100)
4					
5	避難所疑似体験演習のふりかえり	GW			
6	災害急性期の看護 (トリアージ・搬送など)	講義・演習	8 (50.0)	8 (66.7)	16 (57.1)
7	災害急性期の看護 (包帯法、骨折への援助など)	講義・演習	10 (62.5)	7 (58.3)	17 (60.7)
8	病院の備え (アクションカードの作成)	講義・GW	5 (31.3)	9 (75.0)	14 (50.0)
9	病院の備え (病院・施設における災害への備え)	講義・GW	6 (37.5)	4 (33.3)	10 (35.7)
10	災害とコミュニケーション	講義・ロールプレイ	6 (37.5)	7 (58.3)	13 (46.4)
11	避難所内の災害時要援護者への看護	講義・GW	8 (50.0)	5 (41.7)	13 (46.4)
12	災害とフィジカルアセスメント	講義・演習	8 (50.0)	9 (75.0)	17 (60.7)
13	エマルゴトレーニング	講義・演習	3 (18.8)	6 (50.0)	9 (32.1)
14	個人防衛用装備の選択と使用	講義・演習	2 (12.5)	7 (58.3)	9 (32.1)
15	一般市民への災害に関する備え教育	GW	5 (31.3)	2 (16.7)	7 (25.0)

注) GW: グループワークの略

としての災害看護学2単位、演習科目としての災害看護学演習2単位がある。災害看護学は4年生前期に集中講義で行われ、卒業要件として国際看護学2単位とのどちらか一方以上を習得しなければならない科目と位置づけられている。災害看護学演習は4年後期に開講され、受講要件として災害看護学の単位修得見込みがある学生としている。看護研究演習で災害看護に関する研究に取り組む学生には、この演習を選択するようにすすめている。さらにこの演習は4年後期に開講していることから国家試験直前まで実施すると学生への負担がかかるため、12月までに終了するように授業を調整している。災害看護学演習を担当する教員は3名である。

災害看護学演習は、目標を「1.災害サイクルに応じた看護活動に必要な援助を理解できる」「2.災害状況下で活動するための基本的な技術を修得する」とし、表1のように進めた。具体的には災害看護の視点から災害前後の看護活動に必要な援助を学び、災害状況下で活用できるように、災害訓練への参加や災害状況をシミュレーションして学びを深められるようにした。災害サイクルの「準備期」に必要とされる病院施設、市民への備え、「急性期」に必要とされるトリアージや包帯法、避難所運営、「慢性期」に必要とされるコミュニケーションなど必要とされる内容を取り入れるようにした。授業は1回毎に完結するように作成し、前半は演習に関する講義、後半は演習、ロールプレイ、

グループワークを用いた。包帯や三角巾を使用した技術に関するものは演習を、災害時のコミュニケーションを考えてもらう場面ではロールプレイ、見学実習の振り返りやアクションカードの作成ではグループワークを用いるというように各項目にあった方法で授業を実施した。さらに災害拠点病院の見学やDMATの看護師からの講義を入れ、防災センターではその施設の100分コースの体験をうけてもらった。避難所疑似体験演習は、学内の講義室に金曜日の夕方集合させ、自分たちで教室を避難所にみたくて、段ボールやビニールシートで設営をし、翌朝まで集団生活をしてもらう内容¹¹⁾とした。成績評価は、演習に関するレポートまたは授業に関する小テスト(国家試験を参考した内容を含む)で評価を行った。また、学生には授業に関するポートフォリオを作成してもらい、全授業終了後に提出させた。ポートフォリオ作成に関しては、コース開始時のオリエンテーションで、授業毎に事前学習や事後学習で学生が調べた内容を入れること、その際に文献名を記載しておくよう指導した。

V. 結 果

2013年度受講者は16名であったが、途中で1名が欠席多数となり、15名が単位認定該当者となった。2014年度は12名であったが、2名が履修取消を申し出たため、10名が単位認定該当者となった。調査用

紙は、コース前調査用紙は28名に配布し、全員から回収（回収率100%）であるが、コース後は2013年に2名の欠席があり23名に配布、全員から回収した（回収率100%）。

1. 回答者の背景

回答者は全員女性であった。履修動機については、「授業内容に興味・関心を持ったから」に92.8%（2013年87.5%、2014年100%）が回答し、「看護職者として必要そうだから」に64.3%（2013年81.3%、2014年41.7%）が回答した。その他の履修動機として、「救急を希望している」というものがあった。さ

らに理由を記述で尋ねたところ、表2のように「大地震が起こる可能性がある」「日本が災害国である」のような災害発生への懸念、「良い経験ができると思った」「看護師になった時に派遣ナースとして働きたい」のような自身の成長への期待に関する内容、前期の災害看護学受講がきっかけになり、「災害看護学の授業を受講してもっと勉強したい」があった。

2. コース前調査について

各授業項目への興味について「避難所疑似体験演習（夜間）」「施設見学」はそれぞれ80%～100%であった（表1）。一方、2013年度は「エマルゴトレニン

表2 災害看護学演習に対するコース前の学生の意見や要望

質問項目	まとめ	記述
履修動機	災害発生への懸念	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も大地震が起こる可能性がある ・日本が災害国である ・自分の地域で災害が多い ・災害はいつ起こってもおかしくない ・東日本大震災での被害にすごく危機感を感じた ・自分の親戚も避難所生活をしたことがある
	自己の成長	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が看護師として、どう動くべきか、何ができるのかを知ることができる ・医療関係者として、災害時に少しでも何かできるようになっておきたい ・看護師として、働くときに役に立つ分野であると考えた ・何もできないのは嫌だから ・演習内容が今後、役立つと思った ・Ns.になる上でも知っておくべき知識だ ・学ぶきっかけになる ・自分が看護師になった時に派遣Ns.として働きたい
	知識を深めたい	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと詳しく勉強したいと思った ・前期の災害看護学の授業がおもしろかった ・まだ良く把握できていない、災害看護についての知識を深めたい ・災害発生現場で活躍する医療従事者に関心を持った
	日常では経験できない	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間学習があったり、病院や施設に行けたりと良い体験ができる ・普段自分が体験できないことである
興味が高い理由	知識を身につけたい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時迅速に動かなければいけない状況下での看護師の役割を学びたい ・普段の授業では学ぶことができないことだ ・看護者だけでなく被災者の気持ちも知りたい ・災害時のコミュニケーションについて知りたい ・心理的ケアが重要だと思った ・看護職者になるものとして災害看護について知識・技術をつけたい ・今後、役立つと思う ・自身の知識・スキルUP ・フィジカルアセスメントを体得できていないと思った ・DMATに入ることも考えている
	体験したい	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所での生活を体験し、学びを深めたい ・実際に災害時を想定してどのように対応したらよいのかを考えられる ・実際に学べるものが良かった ・実際に自分が体験してみないとわからない ・具体的な演習だと思った ・どのように実施していくのかを把握したかった
履修の期待と学びたいこと	知識を身につけたい	<ul style="list-style-type: none"> ・いろんな防災グッズを知りたい ・先生の体験談や知識を吸収したい ・授業内で1つ1つ確実に身につけたい ・他のNs.との協力の仕方を考えていきたい ・具体的に災害にあった時に冷静に対応できる技術・知識を身につけたい ・私生活に役立てられそう ・楽しく学び、自分自身のものになりたい
	楽しく行えそう	<ul style="list-style-type: none"> ・他の授業より演習が楽しく行えそう

グ「個人防衛用装備の選択と使用」、2014年度は「一般市民への災害に関する備え教育」が20%以下であった。また、2013年度の学生は平均5.7項目選択したのに対し、2014年度は平均7.2項目選択した。授業の興味に関する記述(表2)では、「普段の授業では学べない」「具体的な演習だ」「フィジカルアセスメントを体得したい」「被災者の気持ちを知りたい」というような知識を身につけたい思い、「避難所生活を体験したい」「体験してみないとわからない」というような体験したいことへの興味が記された。履修に対する期待には、「防災グッズを知りたい」「1つでも身につけたい」「先生の体験談や知識を吸収したい」「他の看護師との協力の仕方を考えたい」「冷静に対応できるようにになりたい」というような知識を身につけたい思いと、楽しく行えそうがあった。

3. コース後調査について

全15回の授業をすべて参加した学生は10名(2013年4名, 2014年6名)であった。災害看護学演習コース後の評価(図1)は、23名の学生から得られた。「そう思う」「どちらかというと思う」に「①この授業に積極的に参加することができた」「②この授業の内容はどれも良く理解できた」「③この授業は自分の成長のために役に立つと思う」「④この授業は看護職者に役に立つと思う」「⑥この授業は期待した内容と同じであった」「⑦災害看護に授業を受ける前よりもより興味を持った」「⑨災害看護について今後も学習を続けたい」の7項目に90%以上の学生が回答した。一方、「⑤4年生後期に授業を行うことがふさわしい」は64.8%、「⑧この授業は思っていたより難しいものだった」は43.4%であった。

各評価に関する記述結果(表3)では、「①この授業に積極的に参加することができた」に関しては、「1度も休まなかった」等の出欠状況に関する自己評価、「グループワークで積極的に意見を出した」「自分の意見を求められるグループワークに緊張した」という意見があった。「②この授業の内容はどれも良く理解できた」に関しては「事例などがあって想像しやすかった」「先生の詳しい授業や、実際の話聞くことで学びになった」という内容に関する意見、「はじめてのことばかりで興味が持たなかった」「自分が体験することで理解できたものが多かった」というわかりやすさが記述された。一方で、「内容が盛りだくさんすぎて疲れた、理解が追いつかなかった」「エマルゴトレーニングなど難しかった」という理解が追いつかないという

意見があった。「③この授業は自分の成長のために役に立つと思う」に関して、「備えの意識が高まった」「知らなかったら実施できないし、役立つと思う」「この授業に参加していなかったら経験することがなかった」「これから生きていく上で大切なことを多く学ぶことができた」「災害時のことを想定することはあまりないので考える機会となった」「一般病棟でも使える知識がたくさんあった」等の貴重な体験になったこと、他の授業で得ることのできない体験ができたこととらえられていた。「④この授業は看護職者に役に立つと思う」に関しては、「防災意識を持つきっかけになった」「実際に救急時に応用できると思う」「地域の人々にどのように伝えていくことが大切になるのかを学ぶことができた」「病院での対応について学ぶことができた」「看護師としての視点で災害時のことを考えることができた」「トリアージや包帯など看護師としての技術の他に看護者としてどのような教育が必要なのか、病棟でする必要があることなど具体的に理解することができた」「勤務中に災害が起こったときには学んだことを冷静に取り組もうと思った」「外出先でも勤務時以外に災害が発生した時に役立つと思う」と回答された。「⑥この授業は期待した内容と同じであった」に関しては、「体験することによって被災者の思いなどを感じることも少しでもできた」「アクションカードやエマルゴトレーニングなど普段なかなかできない体験や学びができた」等があった。「⑦災害看護に授業を受ける前よりもより興味を持った」に関しては、「もっといろんな事を知りたいと思った」「自分の防災に対する知識のなさを痛感した」「授業をとおしてもっと深く学んで災害時活躍できるようになりたい」等興味を増やしたことに関する記述があった。自身の災害認識への反省、授業による災害への危機感、周りの人に伝えたい気持ちなどから興味を増加させていた。「⑨災害看護について今後も学習を続けたい」に関しては、「今後災害が起こる可能性があるから」「看護職としても、自分を守るためにも必要だと思う」「災害国でもあり、協力して人の命を守っていくためにも知識を身につけていきたい」「就職先でも災害についての学べる機会があるので、それに積極的に参加したい」と授業で想起させられた思いがあった。

「⑤4年生後期に授業を行うことがふさわしい」に関して「災害看護は1~4年で習ったことを合わせたものだと考える」「国試に出ることについても学べたし、演習しながら楽しく行っているので、ちょっとした息抜きにもなる」「他の講義も少ないし、集中して講義を

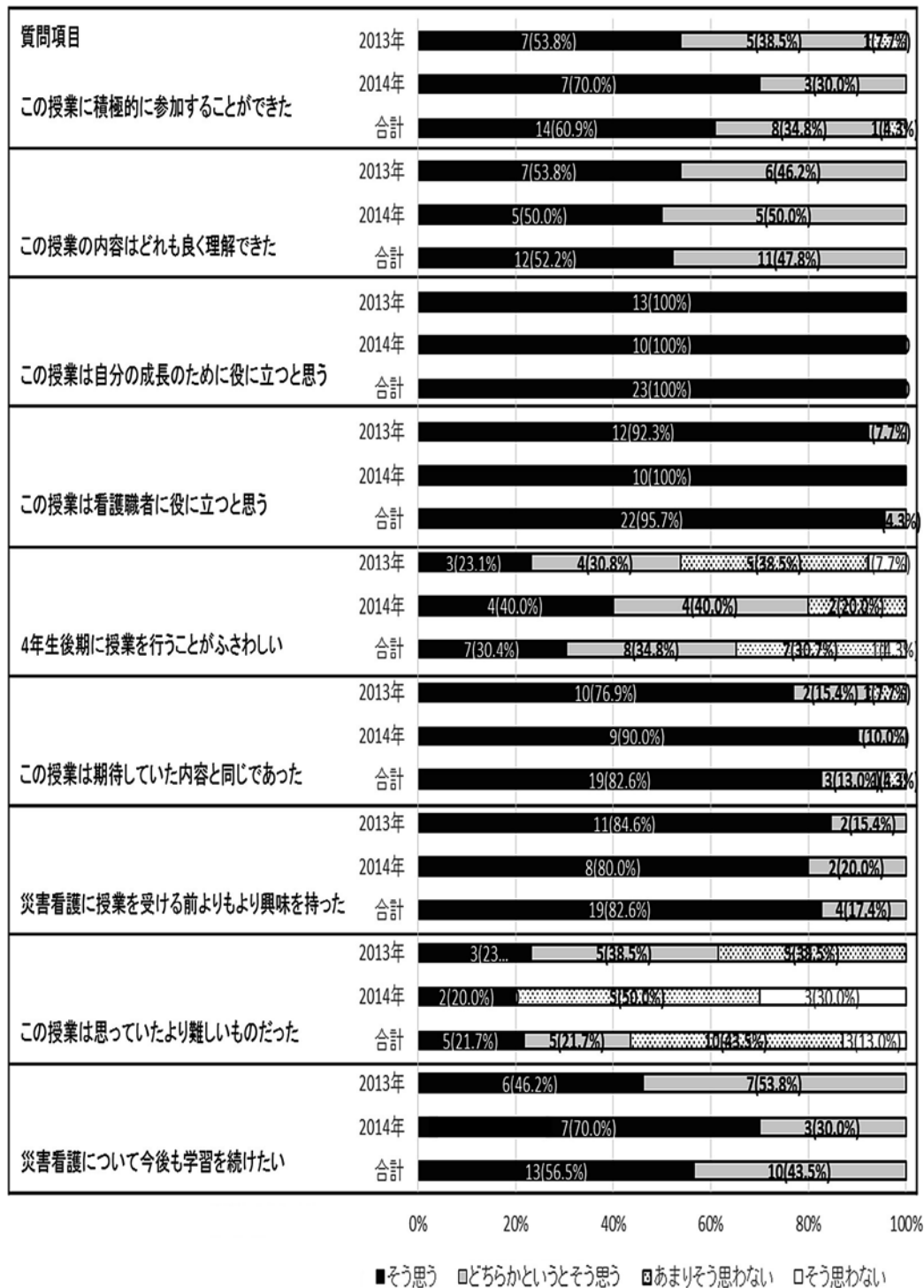


図1 災害看護学演習コース後の評価 (n=23：2013年13名，2014年10名)

受けれる」「国家試験前ではあるが、前期で学んだことを後期の演習でさらに学びを深めることができた」とちょうどよいとする意見がある。一方、負担になるという意見として「11月以降になってくると事後学習が負担になるので、4年生後期がふさわしい」と言い切れない」等があった。「⑧ この授業は思っていた

より難しいものだった」に関して、難しいとするものとそうでない意見の両方があった。授業評価としては「座学だけでなく、演習もあったので理解しやすかった」「難しいのもあったが楽しかった」等であった。災害看護の理解の困難さとして「避難者の気持ちを考えたりするという事は難しい」「知識がもっと必要

表3 災害看護学演習に対するコース後の学生の意見や要望

質問項目	まとめ	記述
①この授業に積極的に参加することができた	出欠状況に関する自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・1度も休まず、事前学習した ・少し遅刻したがすべてに参加した ・数回欠席した ・遅刻をしたときもあったが休まず来ることができた ・毎日参加した ・欠席せずに全ての授業を受けた。 ・休まず、きちんと来れた。毎回、頭をよく使い、考える力がついた
	グループワークへの貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークも積極的に意見を出して話し合った ・グループワークや演習などに進んで参加することができた ・自分の意見を求められるグループワークが多かったので緊張した
②この授業の内容はどれも良く理解できた	わかりやすく学びになる	<ul style="list-style-type: none"> ・実技、講義両方あったのでわかりやすかった ・事例などがあって想像しやすくてわかりやすかった ・実体験やDVDを用いてくれるのでとてもわかりやすかった ・先生の詳しい授業や、実際のお話を聞くことで学びになった ・初めてのことでばかりで興味が持てた
	座学ではできない学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ワールドカフェ形式のGWも楽しく実施でき、意見交換ができてよかった ・災害の備えやトリアージの練習、包帯法はとても勉強になりました ・グループワークもたくさんあり、自分の考えと他の人の考えをお互い理解できた ・写真や実際の防護服等を見て、体験できたので理解しやすかった ・一つ一つの授業で、座学だけでなく、演習をするので、理解につながった
	理解が追いつかない	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が盛りだくさんすぎて理解が追いつかないこともあった ・授業では学んだが、復習できていない部分もある ・エマルゴトレーニングなど難しかった ・初めてするもの（聞いたもの）もあったので、十分に理解できなかった部分もあった
③この授業は自分の成長のために役に立つと思う	貴重な体験で他の授業では得られない	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護について様々な知識・技術を身につけることができた ・実技があったので、それは強く感じた ・体験することが多い授業だったのでわかりやすかった ・備えの意識が高まった ・知らなかったら実施できないし、役立つと思う ・演習も多く、この授業に参加していなかったら経験することもなかった ・これから生きていく上で災害について大切なことを多く学ぶことができた ・フィジカルアセスメントの授業は今後のために勉強になりました ・災害拠点病院に就職予定なので自分自身にとって役に立った ・実際に体験できる授業も多かったため、感じるものが多くあった ・災害時のことを想定することはあまりないので考える機会となった ・国試の問題とは違ってより詳しく災害について考えることができた。 ・少しでも知識があるのとないのとでは災害時の動き方が全く異なるだろうと思う ・就職後も役立つと思う ・フィジカルをもう一度、自分で考えて実施できて良かった ・救急でなくても、一般病棟でも使える知識がたくさんあった ・実際、働いた時に、アクションカードや、環境の事はとても役にたつ ・通常の授業では学べない実施的なことが学べた
④この授業は看護職者に役に立つと思う	看護職者として役立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・病院でも災害対策・対応は必要になる ・看護師は病院だけの職業ではないので、知っておいた方がよい知識もあった ・防災意識を持つきっかけになった ・実際に救急時に応用できると思う ・地域の人々にどのように伝えていくことが大切になるのかを学ぶことができた ・病院での対応についても学ぶことができた ・トリアージや包帯など看護師として技術の他に看護者としてどのような教育が必要なのか病棟ですることなど具体的に理解することができた ・看護師として勤務中に災害が起こったときには学んだことを冷静に取り組もうと思った ・看護者として、災害時にできることをたくさん学ぶことができた ・看護師であれば知っておくべき内容だと思う ・外出先でも勤務時以外に災害が発生した時に役立つと思う ・災害でなくても、病棟で活かすことができる。 ・避難所での看護者の役割が理解でき、役立てれる
⑤4年生後期に授業を行うことがふさわしい	ちょうどよい	<ul style="list-style-type: none"> ・災害看護は1~4年で習ったことを合わせたものだと考える ・国試に出ることについても学べたし、演習しながら楽しく行うので、ちょっとした息抜きにもなる ・国家試験前ではあるが、前期で学んだことを後期の演習でさらに学びを深めることができたので良かった ・1,2年生では、まだまだ知識不足なので、4年間の集大成で学ぶことによってより理解できるし、学びが深くなる ・授業で学んだことが国試の問題に出ていることがあった ・他の講義も少ないし、集中して講義を受けれる ・実習を通して学んで、国試とも関連することも沢山あるので今の時期でちょうど良い ・4年生のこの時期だからこそやる意味はある ・国家試験を取り入れてくれるので自分もやる気があがるし、知らない問題にも触れることができた ・12月で終わるため、そんなに国試の勉強にさしつかえない

西上他：看護基礎教育における災害看護学演習

表3 災害看護学演習に対するコース後の学生の意見や要望（つづき）

質問項目	まとめ	記述
⑤ 4年生後期に授業を行うことがふさわしい	負担になる	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの人が参加できる時期が望ましい ・授業時間が多い ・11月以降になってくると事後学習が負担になる ・前期の災害の授業と平行して進めて頂けたら、座学と演習での学びがさらにつながる ・もう少し前に実施してほしかった ・4年の後期にされるのは厳しい。 ・国試などの事を考えるともう少し早くてもいい ・4年時だと、時間的に参加する人が少ない
⑥ この授業は期待した内容と同じであった	期待した内容と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・座学だけでなく、演習があった ・普段では体験できないことだったので、楽しく受けた ・体験することによって被災者の思いなどを感じることが少しでもできた ・想像以上にたくさんの方が学べた ・アクションカードやエマルゴトレーニングなど普段なかなかできない体験や学びができた ・期待していたものをこえていた。学生のうちに体験し、グループワークとして学びを深められてよかった ・災害時の具体的な対応などについて学ぶことができて良かった ・トリアージ、夜間実習、良い経験になりました ・思っていた以上にとても自分のためになる授業だった ・期待していた以上にすごく学びになったし、何よりも楽しく学べて良かった ・思っていた以上にたくさんの方が経験ができて期待していた内容より良かった ・講義だけでなく、実施してやってみる授業も多かった ・災害について詳しく学べた。 ・めったに体験できない事が体験できたので良かった ・自分のやったこともきいたこともない演習がたくさんできた
⑦ 災害看護に授業を受ける前よりもより興味を持った	授業前より興味を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ・もっといろんな事を知りたいと思った ・実際のも物だったり、実技があったり、防災センター見学もあって、知らないといけないと思うこともあった ・自分の防災に対する知識のなさを痛感した ・とても身近に起こりうることだと思った ・学んだことを自分の周りの人に伝えていきたい ・授業を受けて災害について深く考えられるようになった ・災害看護師が避難所にいるといえないとでは被災者の安心感が違う ・DMATになろうとは思わないけど、学びを深めたい ・授業をとおしてもっと深く学んで災害時活躍できるようになりたい ・災害時の物品等に興味を持った ・いつかこの学んだことを生かしたい ・病院で実際にどのようにされているか興味をもった ・自分にできるのかと、不安も大きくなった
⑧ この授業は思ったより難しいものだった	難しい	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の気持ちを考えたりするという事は難しいと思う ・知識がもっと必要だと思ったから ・難しいのもあったが楽しかった ・災害看護を知れば知るほど難しいことがあると思った ・グループワークなどでも、考えや答えが一つではなく、様々な方面から物事を見ていく難しさも感じられた ・災害を受けていないので、被災者の気持ちを考えたり、病棟での備え、対応を考えるのは難しかった ・災害時について考えなければいけないことはたくさんあり、難しいことだと感じた ・思っていたより、被災者の心理などを考えるのが難しかった ・実際に大きな災害を経験したことがなかったので、イメージが難しかった ・災害看護自体経験を積みなければいけないので、難しいのかなと思う ・難しくはないが、イメージするのが大変 ・講義によっては難しいものもあった
	難しくない	<ul style="list-style-type: none"> ・座学だけでなく、演習もあったので理解しやすかった ・広く浅くという印象を受けた ・難しいのもあったが楽しかった ・自分の身近におこりそうな災害について調べ、思ったより難しいものではないと感じた ・GWが多かったのでみんなの意見を聞きながらできた
⑨ 災害看護について今後も学習を続けたい	学習継続意欲をあげる	<ul style="list-style-type: none"> ・今後災害が起こる可能性があるから ・今までの分で満足しているのもっと知らないといけないという気持ちがある ・看護職としても、自分を守るためにも必要だと思う ・いつ起こってもおかしくない ・災害について詳しく知りたいと思えた ・災害国でもあり、協力して人の命を守っていくためにも知識を身につけていきたい ・今回の授業で学んで災害看護に興味を持ったので、もっといろんなことを学んでみたい ・機会があれば、また聞きたい ・看護師になって災害が起きたときは少し力になればよいと思うので、勉強を続けていきたい ・授業を受け、災害看護に対する興味が更にわいたので、今後も学びを深めたいと感じた ・就職先でも災害についての学べる機会があるので、それに積極的に参加したい ・避難所での生活をしている人の気持ちなどを学んでみたい

だと思った」「災害看護を知らなければ知るほど難しいことがあると思った」「実際に大きな災害を経験したことがなかったので、イメージが難しかった」等の意見があった。今回の項目以外に取り上げてほしい授業内容への記述はなかった。

VI. 考 察

1. 看護基礎教育において災害看護学演習をデザインすること

災害看護学演習のデザインをする上で、学生にどのような受講動機があり、どのような内容に興味が高いかを考察した。2013年度、2014年度の2年を記述することで、年度によって興味に変化する項目と共通する項目のあることが分かった。この科目を選択する学生にとって、コース内容に魅力があることと看護職者として必要だと考えること、進路との兼ね合い、災害発生に対する危機感が影響していることが考えられた。石川らの研究⁵⁾でも学生が授業選択の動機として、災害の頻発や学ぶ必要性を感じているとの結果があり、同様の状況が起こっていると考える。

コースへの興味に関して「避難所疑似体験演習（夜間）」「施設見学」が高いのは、この2つの授業内容については前期授業から説明をしていたことや、さらに学生のイメージのつきやすい演習であったことが影響している可能性がある。一方、2013年度において「エマルゴトレーニング」は用語自体が学生にとってわかりにくい内容であった可能性がある。授業への興味に関する記述では、体験を中心とした内容への興味があること、将来へ役立てたいと考えていることがわかった。これはコースに対する期待にも同様の傾向があった。

2. 災害看護学演習に関する評価

このコースを評価するために授業への取り組み姿勢、内容の理解度や今後への役立ち等の観点から調査を行ったが、多くの項目で良い評価を得た。具体的には内容に関する理解度では、わかりやすい、想像しやすいに加え、グループワークで意見交換ができたことと回答されていることから、4年生に対して難易度や有用性に関してちょうどよい内容とレベルのものであったと推察する。一方、長時間や盛りだくさんな内容が理解困難をもたらす可能性があることとわかり、現在以上の内容を盛り込むようなことはさけるべきと考える。自身の成長に対しては、貴重な体験になったこと、他

の授業で得ることのできない体験ができたこととらえられていた。これは、百田らの研究⁶⁾で避難所疑似体験演習後に学生が災害看護への興味を深めたり、将来の災害看護活動への意欲を高める結果を出していたため、本研究でも同様の結果を得たと考える。さらに授業を受けることで自身の災害認識への反省、授業による災害への危機感、周りの人に伝えたい気持ちなどから興味を増加させていた。開講時期の適切性については、演習はフィジカルアセスメントやこころのケア、病院の防災など様々な既習の知識を必要とすることがわかっており、容認する回答であった。息抜き、国試を取り入れた授業にしていることが役に立っていることもわかった。一方、授業時間が多い、もっと早くしてほしいなど容認できない意見があった。演習については、12月までに終わられるように工夫しているが、他の4年生と比較し、忙しかったと考えているようであった。これは2013年度の学生が1期生ということもあり、先輩のいない学生生活の中で、国家試験に対する不安が強く、後期の時期に模試を受けながら、受講となるため、結果に影響したのではないかと考える。困難さについては、災害を様々な方面から見ていく難しさ、被災者の気持ちへの理解に難しさを感じており、これは安易に「理解される」よりも「難しい」と評価されるほうが演習の目的と合っていると考える。

VII. 結 論

- 1) 今回考案した災害看護学演習の内容は、看護学部4年生に対して興味を高め、難易度や有用性に関してふさわしいレベルと内容のものであった。
- 2) 災害看護学演習を受講することで、看護学生に自分の成長や看護職者としての役立ちになると考えていた。
- 3) 災害看護学演習を受講することで、看護学生は更に災害看護学に対する興味を高めた。
- 4) 課題として、開講時期、国家試験準備との検討が必要であった。

VIII. 研究の限界と今後の課題

本研究は、一大学を対象とした調査であり、その一般化には限界があるもののコースとして災害看護学演習のデザインとその評価に関して一部の結果を示すことができたと考える。また、参加者の少なさや選択科

目であることから結果にバイアスがかかっている可能性もあり、継続して追跡が必要であると考えます。今後も災害看護学演習に関する他校のコースデザインやその評価をふまえ、よりよい演習となるよう努める必要がある。

謝 辞

ご回答下さいました研究協力者の皆様に感謝申し上げます。日本災害看護学会第17回年次大会においてその一部を報告した。

引用文献

- 1) 厚生労働省. 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書. [引用 2019-03-11]. URL: <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>: 16
- 2) 山本あい子, 増野園恵, 津田万寿美, その他. 災害看護教育プログラムの開発 —— 災害看護教育内容の抽出とカリキュラム構築 ——. 日本災害看護学会誌 2005; 6(3): 15-29.
- 3) 小原真理子. 災害看護教育プログラムの実例. 看護教育 2008; 49(3): 239-44.
- 4) 佐藤美佳. 看護基礎教育における災害看護学教育に関する研究 —— 災害看護学構築に向けた全国実態調査結果 (第1報) ——. 日本災害看護学会誌 2015; 17(1): 189.
- 5) 石川麻衣, 山田洋子, 武藤紀子, その他. 学士過程自由選択科目における災害地域看護教育の検討. 千葉大学看護学部紀要 2006; 28: 51-8.
- 6) 百田武司, 中信利恵子. 避難所疑似体験演習の効果と課題 —— 参加者へのアンケート調査より ——. 日本赤十字広島看護大学紀要 2011; 11: 1-9.
- 7) 原田秀子, 田中修平, 張替直美. 災害訓練への参加を通しての看護学生の災害看護についての学び. 山口県立大学学術情報 2012; 5: 37-46.
- 8) 成瀬かおる, 高橋順子, 中山富子, その他. 総合防災訓練に負傷者役で参加した看護学生の重傷度による学びの違い. 日本看護学会論文集 看護教育 2007; 38: 111-13.
- 9) 兵庫県立大学. 21世紀COEプログラムユビキタス社会における災害看護拠点の形成 平成17年度活動報告書 2006; 721-43.
- 10) 田島桂子. 看護学教育評価の基礎と実際. 看護実践能力育成の充実に向けて. 東京: 医学書院; 2009. p. 177-82.
- 11) 西上あゆみ, 張暁春, 三浦藍, 岩佐美香. 災害看護学演習における夜間避難所疑似体験演習の実践報告. 梅花女子大学紀要 2018; 8: 21-8.